

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ルピナス戸室				公表日	2026年 2月 21日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	活動内容に合わせて、活動スペースの確保を工夫している。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6		基本の人員配置を守り、ご利用人数に合わせた人員配置をしている。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6		活動をしていく中でバリアフリーの必要性が見られ時に、その都度改善をしている。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5	1	毎日清掃を行ない、清潔を保つようにしている。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5	1	必要に応じて、個別での活動等が出来るように工夫をしている。	個別活動等をする場としては不十分なケースもあるので、もう少しいい形で個別活動等が出来るように工夫をしていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	あらゆる業務においてPDCAサイクルを実践し、業務改善に務めている。	PDCAサイクルを意識して業務に臨んでいるが、まだ改善の余地はある。PDCAそれぞれを有意義なものにしていき、よりよい業務に繋げることができるよう努めていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		前年の保護者向け評価表をもとに、よりよい業務、サービス提供に努めている。	まだ不十分だと思うので、常に振り返りを行いながら、よりよい事業所を作り上げたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティング等、職員の意見等を把握する機会を設け、業務改善に努めている。	より有意義な機会になるように努め、サービス等に反映していきたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	現在、第三者評価は実施していません。	第三者評価の実施に関しては検討中です。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	定期的に研修を行っている。	職員が現状に満足することなく、スキルアップを旨とするような環境づくりの必要がある。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	1年ごとに支援プログラムを作成している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		利用者や保護者のニーズ等を聞き、現状を分析、適切なアセスメントを行い、個別支援計画作成に生かしている。	児童のニーズ等の聞き取りも行っているが、保護者の声を優先しがちなため、もっと児童の声にも耳を傾けて、よりよい個別支援計画作成に生かしたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童発達支援管理責任者だけでなく個別支援計画を作成するのではなく、支援者もモニタリングや支援会議を通して意見を出し合い、計画作成、支援に生かしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援計画は作成後、職員に共有される環境を作っており、支援に生かしている。	個別支援計画の意図等をよく理解して、よりよい方向性を共有し、さらに支援に繋げることができるよう努めていきたい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		保護者面談の内容や日頃の様子などを大切にしたいアセスメントをとっている。	よりよいアセスメントに繋がるようなツールを模索していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		「五領域」や「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域連携」のそれぞれに着目した個別支援計画を作成している。	「本人支援」だけでなく、「家族支援」や「地域連携」についても、もっとよりよい形で支援を提供したい。	

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	一人の職員で立案するのではなく、より多くの職員で活動プログラムの立案を行っている。	まだ全職員で立案できていないと感じている職員もいるので、やり方等を工夫しながら、よりよいプログラム編成をしていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		利用者が有意義に過ごせるようなプログラムになる様に全職員で意見を出し合い、プログラム編成を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別、集団活動を適宜組み合わせながら計画を作成し、支援に繋げることが出来ている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援前にミーティングを行ない、本日の流れや留意点等を確認している。	ミーティングは行っているが、もっと濃厚なものになるようにしていき、よりよい支援に繋げていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		送迎終了後、その日の支援について振り返りを行い、次回以降に繋げることが出来るようにしている	ミーティングは行っているが、もっと濃厚なものになるようにしていき、よりよい支援に繋げていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の支援の記録をしっかりととり、振り返りし、次の支援に繋がるように努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にモニタリングを行い、児童に合わせた個別支援計画作成を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1	「4つの基本活動」を意識した支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		自己選択、自己決定をしやすいような環境づくり等を意識して支援を行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	現状はあまりケースがないが、基本的にはそのような機会には児童発達支援管理責任者や主任指導員が参加する。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて連絡を取り合い、連携をとっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	送迎時や保育所等訪問を中心に情報共有等は行っている。また、お互い気になるところがあればお電話でも情報共有を行う事もある。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	現状、園からの移行支援は行っていない。会社内にある児童発達支援事業所とは情報交換などの移行支援は行っている。	園での様子を支援に生かせるように、こちらから歩み寄りたい。また小学校から中学校への進学も情報を提供するなどの移行支援に積極的に取り組みたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		現在対象者がいない。	現在対象者はいませんが、今後対象者がいる時には移行支援のための情報提供等を行いたいと考えている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		児童発達支援センターとの連携は意識している。	児童発達支援センターとの連携をもっと強くしていき、よりよい支援に繋げていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	提携しているサッカークラブとの合同イベントを通し、事業所外の子供たちと活動する機会がある。	インクルーシブを意識した活動につながるように地域イベント等に積極的に参加していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		協議会等に参加している。協議会主催の研修にも参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や面談時を中心に保護者と情報交換を行っている。こどもの発達の状況について共通理解がさらに図れるように努めてまいります	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		家族支援が十分とは言えない。研修会の紹介や情報提供の機会等をしっかりと行っていきたい。家族支援プログラムに関しては研修等でスキルアップを旨とし、支援に生かしたい。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	契約時に説明を行っている。不明時や周知が弱いものは再度説明を行なうようにしている。	年に1度は再周知の意味を込めて、再度確認する機会を設けていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメントを計画作成時には利用者や保護者の意思の確認を行い、尊重している。意思を踏まえ、最善の利益になる様な計画になる様に努めている。	保護者の意思も大切だが、同時に利用児童の意思も大切なので、しっかりと児童の意向も確認し、個別支援計画作成、支援に生かしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		交付時に説明を行っている。また同意もいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		相談や申し入れは随時受けしております。電話でも来所でもお気軽にご相談ください。ご相談の際は迅速かつ適切に対応できるように努めてまいります。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	3	定期的では無いが保護者同士の連携が促される様な機会を検討している。	保護者会等を設け、保護者同士の関わりが持てるような環境づくりを行っていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		いただいたご意見等については職員間で協議し、すみやかに保護者等に説明の機会を設けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		ルビナス通信やInstagramにて情報発信をしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報は洩れることがないように、個人情報は鍵付き書庫等で保管しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	1	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	研修等を通してスキルアップし、更に意思疎通や情報伝達が上手くいくように努めていきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	事業所行事に地域住民を招待することはできていない。	今後前向きに検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		それぞれマニュアルを策定し、保護者に説明を行っている。	保護者の方へは説明を行っているが、周知が弱いと思うので、再周知の機会を設けていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・業務継続計画（BCP）を感染症、自然災害とともに策定している。 ・年2回避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		定期的に情報共有を行い、状況の確認、対応方法等についての確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	アレルギーの調査を年1回行い、適切な対応方法の確認、周知を行っている。	周知が行き届いていない職員もいる模様なので、しっかりと周知を行い、誰でも対応等ができるようにしていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画は、年度ごとに作成し安全管理に努めている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		契約時等に安全確保等については説明を行っている。	周知が不十分だと感じる。再周知の機会を設けていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ミーティング時にヒヤリハット確認をし、職員間で周知し、未然防止に努めている。	ヒヤリハットをさらに徹底し、利用中の怪我等がゼロになるように努めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年2回以上、虐待防止研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		・契約時、面談時等に十分に説明し、同意書に同意を頂いている。 ・同意していただいた旨は個別支援計画に記載している。		